

曾於市地域づくりフォーラムを開催

テーマ： 地域の魅力発見！発信！！
～共生協働のむらづくり・その先に見えるもの～

共生協働のむらづくりやグリーンツーリズムの先進事例に学び、集落や地域にどのような可能性が秘めているかを提案していただくことを目的として曾於市地域づくりフォーラムが、3月21日末吉総合センターで開催され、各自治会長や公民館長、商工会の役員や地域づくり関係者など約100名の参加があり、二つの講演がありました。

講演1 「正応寺のむらづくり」

講師 NPO法人正応寺ごんだの会

石井和郎理事長（都城市安久町）

15年前の正応寺は、屋敷の木が道路を被い昼間でも暗いところで、「このままではいけない。」と、明日の正応寺を考えるワークショップを開催しました。ワークショップでは15年後の村の実態を知ることからはじめ、アンケートの結果、15年後には、若者が住まない村になり、村の存続自体ができない実態が明らかになりました。

元気で活力のある村づくりには、集落営農を目指したNPO法人立ち上げしかないとの結論に達しました。今では、NPO法人では対応できない集落営農部を担当する株式会社ごんだ農産も立ち上がり、耕作放棄地を活用して地域の経済活動に役立っています。今後は、地域の特産品である柿を中心に加工品の販売を拡大し、直売所の開設も検討しているところです。NPO組織にしたことで、地区民以外の協力者が数多くむらづくり活動に参加してくださり、近年1ターンにより人口も60名ほど増えました。

これからの正応寺は、美しい田園風景を守り、話し合い活動と農産物加工品によるコミュニティビジネスにより、結いの心と年寄りに優しい福祉のむらづくりを目指しています。



講演2 「今田舎が行動する時代(とき)」

講師 北きりしま田舎ものがたり推進協議会

清水洋一会長（小林市）

昭和40年代の観光は、青島海岸や霧島への新婚旅行客も多く、観光バスも数多く訪れていました。しかし、小林ではお金が使われることなく、通過するだけのまちでした。

小林には、陰陽石のほかにも三之宮峽をはじめ、多くの湧水があり、この素晴らしい自然を活かして自分たちのまちを発信していこうと考え、小林おもしろ発見塾を発足し、自分自身でも毎週欠かさず三之宮峽に通い続けました。

そこで、北きりしまの自然や農業を活用して、グリーンツーリズムに取り組む事にしました。

農家民泊とは、農家に泊まって農家の方と一緒に農作業体験や田舎料理作りなど農家のあるがままの暮らしをまるごと体験するものです。お客との心と心の交流が生まれ、新しい“ふるさと”を感じてもらおう。まさにこれが、農家民泊の醍醐味です。「お金もうけではなく、『人もうけ』」という農家さんの言葉には、こうした交流の証となる思いが込められています。現在の受入農家数15軒。めざすは50軒です。地元には何も無いと思いがちですが、人を呼べる観光資源はたくさんあります。地元が自信を持つこと、お客を受け入れる農家は、決まり事をしっかり守ることが大事です。